



看護実践を語る会 活動報告

しまね看護交流センター卒業生・修了生のフォローアッププロジェクト

2013.11.15

「看護実践を語る会」を行いました

平成 23 年度看護学科卒業生が、自身の看護を語ってくれました

去る 11 月 15 日（金）に、しまね看護交流センター開所以来初となる、「看護実践を語る会」（卒業生・修了生支援の一環）が開催されました。
場所：214 実習室
時間：18:00～20:00

事例紹介で語る

平成 23 年度卒業生（臨床 2 年目看護師）が、患者とその家族との関わりや看護について、印象に残った場面を語ってくれました。写真は、ナラティブ研究会のメンバーが卒業生に質問している場面です。

語ることで看護の意味づけができる

印象に残った場面は、一生懸命関わった場面であり、語り手の看護師

が看護実践で大切にしていることが見えてくる場面です。聴き手のナラティブ研究会のメンバーは肯定的に聴き、問いながら、語り手の卒業生の看護の意味づけをお手伝いしました。

今回の語り手の卒業生は、「信頼関係をご家族とも築き、相手の立場に立って自分から巻き込まれていく姿勢と視点を持った看護を実践している」ということがわかりました。

新人看護師にとって看護場面を振り返ることは、自身の看護観を育むことにつながると思います。

場面



このプロジェクトは、ナラティブ研究会の協力により行われています。

現職の看護師や、本学教員が参加しているナラティブ研究会のメンバーの意見と、事例提供者の語りの相互作用から、「臨床知」の発見につながります。あなたも参加してみませんか。参加申し込みなど詳しくは HP をご覧ください。